

平成23年度第2回流山市生涯学習審議会会議録（要旨）

1 日時

平成23年8月26日（金）14時00分～15時50分

2 場所

流山市役所 301会議室

3 議事

（1）委員紹介、委嘱式

（2）「次世代を担う青少年を育てる地域環境づくり」（流山市生涯学習推進基本構想第2節）の具現化について

（3）その他

4 出席委員

小林委員	佐々木委員	岡林委員	辻野委員	丹野委員
宮本委員	生天目委員	石川委員	山中委員	

5 欠席委員

山口委員	濱田委員	川上委員	大橋委員
------	------	------	------

6 事務局

友金生涯学習部長	直井生涯学習部次長兼生涯学習課長	
戸部公民館長	鈴木図書・博物館長	
渋谷生涯学習課長補佐	増田課長補佐	須田図書・博物館次長
梅次青少年指導センター所長	菊本係長	山下主任学芸員
山田主事		

7 傍聴者

なし

8 会議録

14：00 委員紹介後、開会

（小林議長）

出席者9人で会議が成立していますので、開会します。

傍聴人がいないことを確認。

資料1（教育の体系ほか・小林委員作成）について説明。

(事務局)

資料 2 (流山市内で行われている学校外の青少年関連事業)について説明。

(小林議長)

資料 1、資料 2 をを踏まえて、子どもの育成のみならず、青少年団体の運営についても意見を伺いたい。

(丹野委員)

校長先生から見て、中学生は部活動などがあるなかで、学校外の活動に参加している人数は多いのか、少ないのかを知りたい。

(生天目委員)

本校では部活動加入率が 7 割であり、さらにピアノなどの稽古事で学校外活動していることを考えると、その比率は高いと思う。

(丹野委員)

中学生の学校外の活動への参加比率が 10 % 程度で低いと思う。

(岡林委員)

ほぼ全員の中学生在が部活動に所属し、休日も練習していることを考えると、中学校の学校外の活動への参加率 10 % は非常に多いと思う。

(辻野委員)

資料 2 別紙 5 の親子参加の主な事業の中にある、親子科学教室では放射線や原発事故は扱ったのか。現在の教科書では原子力が除外されているので、差し支えなければ教えていただきたい。

(事務局)

放射線については東京理科大学の先生を招いて保護者向けの講演会を行ったが、この親子科学教室は身近な科学をとおして親子で科学への興味を引くことが目的である。したがって、この教室では放射線や原発事故を扱っていない。

(岡林委員)

東京理科大学との協力は、他市に先駆けておこなったことを評価したい。

流山市では多くの事業を展開していることがわかった。

事業評価については費用対効果が話題なるが、教育についてそれを適用するのは難しいと感じた。

また、イベントが目的化してはいけないのは当然であるが、運営側としては参加者が多い方が良く、そこまで卑下する必要はないのではないか。特に社会教育は成果が見えないので、何か喜びを共有できれば十分かなと思った次第である。

(事務局)

資料 2 別紙 7 (青少年の相談体制の充実) について説明。

(小林議長)

青少年相談について、流山では大きな問題になっておらず、良いことだと評価されている。

(丹野委員)

青少年相談と地域や家庭との関わりは重要で、もっと強調すべきである。

(小林議長)

評価の話が出たが、ポジティブなものについては参加率、ネガティブなものについては相談件数など数字になりやすいデータばかりが載ってしまう。良いものは、もっと紹介していきたい。

(石川委員)

引きこもりや就業支援などの相談を、相談機関へ引き継ぐことが課題であるとの説明であるが、具体的にはどのような相談機関があるのか。

(事務局)

就業支援については商工課にジョブサポート、NPOに職業紹介など

があるが、まだ利用が少ないのが実態である。

相談を受けることはできても、具体的な支援策などをおして解決に繋がる事例が少ない現状である。

(宮本委員)

学習プログラムの情報提供はいつごろから始まったのか。

(事務局)

6年以上前から生涯学習情報提供事業として「まなびピア流山」の発行を続けている。編集の都合もあり年2回の発行にとどまっている。

(小林議長)

行政と民間がそれぞれに生涯学習事業を展開していると思うが、「まなびピア流山」の編集に当たっての問題はあるか。例えば民間の事業で営利を目的とした事業や内容もあるのではないか。

(事務局)

必要に応じて照会先を追加している。特に平成23年度前期分から、照会先を400か所に増やした。また、生涯学習事業の中には営利を目的とした事業も見受けられるが、その辺を精査するにしても、何をもって営利と判断するか、その基準を設けることも難しいところもある。

また、情報提供の機会が年2回しかないため、時機を失した例も多々見受けられるため、情報提供事業には改善の余地がある。

(小林議長)

山中委員は初めての出席ですが、何か意見はありますか。

(山中委員)

青少年の相談体制に戻ってしまおうが、いじめに関する相談が少ないことに驚いた。これは学校教育や心の教育などによって、いじめが未然に防がれているように感じた。

青少年指導の相談の傾向について、教えてほしい。

(事務局)

青少年指導センターの相談室は児童から18歳までが本来の対象であるが、実際には30歳代までに対象範囲が広がっている。相談先も他にもあるので相談者も相談先を選択しており、指導センターに来る相談者は、不登校や進路のことで、中学2年生3年生以上が多い。

(事務局)

いじめホットラインという相談機関があり、子どもたちが直接相談できるよう、パンフレットなどを配布しているので、いじめ相談はそっちに流れているようにも感じられるが、相談室の会議に出席しているが、そこでの報告も毎月数件程度である。

(小林議長)

佐々木委員は意見がありますか。

(佐々木委員)

高校生の進学の関係で、流山の事例ではないが「地元の高校に行きたくない」ということがある。これは中学生まで地元でしっかりしてもらえば、郷土を愛せる気持ちが育めると思う。

先の話であるが、資料3の設問について、イベントの周知方法についても調べてもらえるとより良くなると思う。

(事務局)

資料3（青少年の健全育成活動アンケート）について説明。

(小林議長)

私としても青少年団体が活性化してほしいと考えているので、そのためにも団体の状況を理解したい。

調査をする前であるが、どのあたりに問題が出ると予想しているか。

(事務局)

後継者不足や親の協力などの事項が焦点になると思う。

(小林議長)

この調査は、どれくらいでまとまるか。

資料3のアンケートについて、各委員の自由意見を求めたい。

(事務局)

早くて2か月くらいでまとまる見込みである。

(生天目委員)

参加者の親の満足度や不満、希望、要望については、どう考えているのか。利用者側が望むものを知る必要があるのではないか。

(小林議長)

事業の提供側とサービスを受ける側の両方の意見を聞くことが大切だと思う。営利の病院では患者の満足度を調べることが一般的である。しかし、青少年活動団体など提供する側は善意で活動しているのだから、ちょっと難しいかもしれない。

(丹野委員)

事業や相談に参加していない人たちに、積極的な働きかけを必要とするのではないか。何か活動したい時、どこに行けば情報があるのかを把握できるようにしてほしい。

(小林議長)

「まなびピア流山」を冊子で公共施設に設置しているほか、ホームページで公開しているが、丹野委員はもっとアグレッシブに知らせることはできないのかとの意見ですね。

(事務局)

現在は「まなびピア流山」による情報提供を冊子やPDFファイルで行っているが、各団体がそれぞれにホームページスペースを持ち、随時にホームページを更新できるようにしたいと思っている。そうすると更新頻度の差が表れるが、基本的には各団体の自主性を重んじたい。

(小林議長)

クリックにより、情報を簡易に選べるようになるのが良いと思う。

(事務局)

市が情報を管理するのではなく、将来的には各団体の自主性に任せたいと考えている。

(辻野委員)

ホームページに掲載しているだけではなく、積極的な呼びかけが必要で、活性化するには人が集まることが第一歩であると考えます。

(事務局)

生涯学習を始めたい人にも対応できる生涯学習情報システムを作につり、常に新しい情報を提供できるようにしたい。

生涯学習推進基本構想の中でも、生涯学習情報提供システムの構築がうたわれているので、システム構築に尽力したい。

(小林議長)

情報提供に関する事項は意見が出たようであるので、資料3を宿題として、その結果がまとまり次第、次回の会議を開きたい。

次に、議題(3)その他について事務局からあれば、説明を求めたい。

(事務局)

資料(流山市民総合体育館建替え事業基本方針・基本計画素案)のパブリックコメントについて説明。

(佐々木委員)

現在の陸上競技場の上に建てることになるが、陸上競技場はどうなるのか。

(事務局)

現在の陸上競技場は公式記録ができないため、記録を必要とする学校行事では、柏の葉にある県立のグラウンドを使用している。あまり使わ

れていないのが実情である。将来的に用地が確保できれば、設置したい。

(生天目委員)

体育館自体は便利になるだろうが、交通の安全面など将来を見据えた整備が重要になるのではないか。

(事務局)

体育館としての利用だけではなく、例えばマーチングバンドなどの利用も考えられるため、都市整備部の公園整備計画と一緒に、全体を考えていきたい。

(丹野委員)

個人を対象としたスポーツ教室などは考えているのか。

(事務局)

総合型地域スポーツクラブなど、多世代を対象にした他種目のプログラムを提供したいと考えている。

(丹野委員)

スポーツ相談等は開設するのか。

(事務局)

現在では考えていないが、トレーニング室は設置するので、その中で必要に応じ設置することはあり得る。

(山中委員)

今回の計画では野球場やテニスコート、駐車場の再整備計画はないのか。

(事務局)

一度にはできないので公園再整備計画と一緒に検討したい。

(石川委員)

利用料について影響はあるのか。

(事務局)

ある程度の受益者負担はあるが、安価に設定していきたい。

使用料は基本料金をできるだけ抑え、空調や照明のオプションを別料金として考えていきたい。

(小林議長)

設計や建設後の管理運営に関する協議は、どのようになっているか。例えば、市単独であるのか、コンサルタントを導入しているのか。

(事務局)

コンサルタントは入っていない。市民と市で協議しており、現在の指定管理者も市民側として参加している。

(小林議長)

体育館建替えについて、基本的な質問が出たようなので、その他、何かありますか。

(事務局)

文化会館耐震工事が1月から始まり、現在、工事の8割方が終わったところで、7月から公民館部分の使用を開始した。また、9月1日からはホール的一般利用の開始を予定している。

青少年主張大会と東葛飾社会教育連絡協議会振興大会の案内配布。

相馬の絵画展を案内。

(小林議長)

今、飛び出す絵本展も開催しているが、なるべくこういうイベントには参加してもらいたい。

(事務局)

次回の生涯学習審議会はアンケートを集計して12月頃に開催したい。

以上で第2回生涯学習審議会を終了します。 15:50終了